

遠藤ひろし

地域振興と県政発展

県議会議員 遠藤浩の信条は、「地域の振興は、県政発展の基礎。」直面する課題解決に対して真摯に取り組んでいます。歴史に学び、先人を敬う政治は、新たな課題に対しても柔軟な対応をいたします。

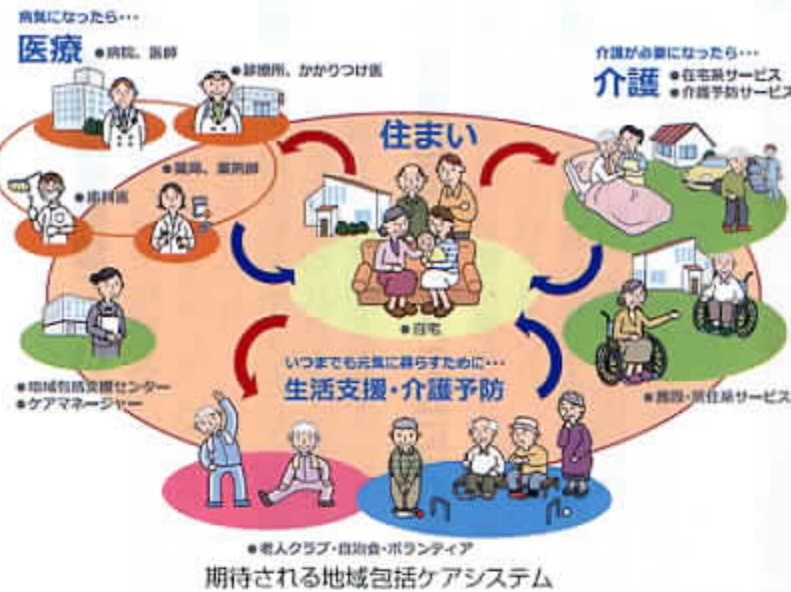
ごあいさつ

市川三郷町にお住いの皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、峡南地域の県立高校再編整備について市川三郷町内に新設の総合制単位制高校が設置されるという県教育委員会の方針が示されました。今後は、詳細を地元自治体や関係者などで構成する「地域会議」で整備案を検討します。

地域の振興は県政発展の基礎。「地域振興と県政発展」が達成できますよう取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。





これからの地域づくり



地域説明会の様子(市川高校内)



市川高等学校

医療も介護もひっ迫

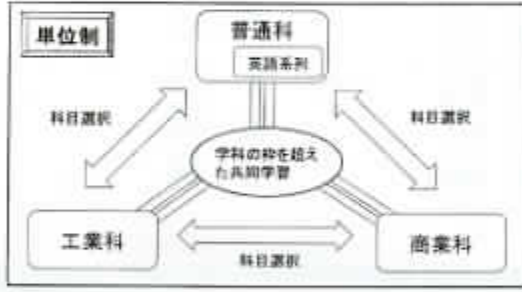
今や、国の国家予算額を超えてしまった社会保障費です。年金、医療・介護費の高騰により、社会保障制度の将来が危惧されます。今後は、地域での在宅医療・介護に重点が置かれ、より、地域

での充実した取り組みが必要となります。

力を育み独特な教育環境を創り育ててきました。この事は市川三郷町の誇りであり、市川三郷町教育の原点だと思えます。子どもたちが通う教育環境を、みんなで考え、提供していく事が、私たち大人に課せられた責任だと思いいきまします。

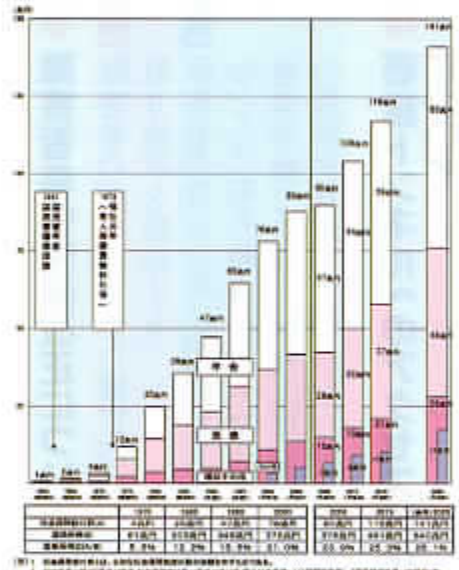
高校再編整備

県教育委員会は、峡南地域にある高校の小規模化や校舎・施設の老朽化の状況から、市川高校、増徳商業高校、峡南高校を集約して総合制単位制高校とし、市川三郷町内に設置する方針を示しました。今後は、町や同窓会、PTAの代表で構成する「地域会議」を今年度中に設置し、具体化への協議を進めていきます。



総合制単位制イメージ

国は、社会保障費の抑制を、平成37年を見据えて行っています。病床削減の影響も相まって医療と介護の現状と将来は、厳しいものがあります。地域は、医療と介護との連携を充実していく事が課題となり、家庭や個人に負担が集中しないよう、ボランティアやNPOなどの育成も求められ、総合的な支援体制をつくる事が今後の課題となります。



増え続ける社会保障費

マイナンバー制度

来年1月からスタートする「マイナンバー制度」は、健康保険証や年金手帳としてご利用できるばかりではなく、行政手続きの簡素化や正確さ、社会保障などの不正受給、脱税を防ぐなど必要な制度です。交付作業がはじまったカードは、住所、氏名、資産状況など重要な情報も把握できることから管理を厳重にする必要があります。



個人番号カード(イメージ)

マイナンバー制度の概要

薬用植物栽培

県は、当帰(トウキ)、オタネニンジンなどの試験栽培を始めています。薬効成分や生産コストを分析し、品種の選定に向け取り組んでいます。現在、国産化による有益生と品質の安定性を追求しています。今後は、新たな産業として大いに期待をしています。



オタネニンジン

当帰(トウキ)



● **地域医療構想について**

問 国が示した病床数削減の公表は、高齢化する社会や地域に対し不安だが地域医療構想の狙いは。

答 必要な病床数を示すことにより患者の状態に応じて切れ目なく必要な医療を提供できる体制を目指す。

● **介護包括ケアシステムについて**

問 病床削減の影響が懸念される中、地域格差が不安視されている。

答 必要な専門職や担い手の確保・養成に取り組み、県内全域で地域包括ケアシステムの構築が円滑に進むよう支援していく。

一般質問 議会活動

● **障害者幸住条例改正について**

問 障害者の声を踏まえた障害差別のない取り組みを期待する。

答 障害者の身近な所に相談員などを置くなどとして取り組み、広報や研修会など、啓発活動で気運を盛り上げ、共生社会の実現を目指す。

● **若彦トンネルへのアクセス強化について**

問 県道笛吹市川三郷線の整備の状況と今後の取り組みは。

答 下芦川地内や畑熊地内における現道拡幅工事の早期完成を目指し、今後、狭あい部の解消や道路防災対策を進めていく。

● **公共工事における用地取得の推進**

問 相続の関係や共有地など権利関係が複雑な用地の取得にどう取り組みむのか。

答 専門家からの助言を得る事で問題解決を図る。地域の実情を熟知している市町村との連携を図り所有者の理解を得、進めていく。

● **老朽空き家への対応について**

問 空き家に対する特別措置法が施行され、円滑に進められるようどう進めていくのか。

答 周辺に悪影響を及ぼしている老朽空き家は、個々の事案に対応した技術的な助言を行うなど市町村を支援していく。



委員会の様子

● **高校における英語教育について**

問 グローバル化の進む中、高校生の留学促進にどう取り組むのか。また、英語科の改変についてはどう臨むのか。

答 アイオワ州の高校生と協同学習を行う予定で、明年3月の実施に向け参加者を募集している。峡南北部の新設校は、単位制とすることで、英語に関する科目選択の幅が広がる。

● **峡南地域の高校再編整備について**

問 再編整備案の概要が示されたが、教育環境をどう考えるのか。また、新設校の場所は。

答 各校の伝統や特色を生かすため単位制とした。自ら科目を選択できるようになり学科の枠を超えた学習が可能となる。設置場所は、必要な面積などを考慮しながら検討する。